

WS1 救急医療の地域における諸課題の把握と分析

国立病院機構 大阪医療センター
統括診療部 救命救急センター
災害医療対策部 災害医療企画室

梶野 健太郎

救急医療の地域における諸課題の把握と分析

(目標)

- ・自県(都府)の現状を自ら把握する。
- ・自県(都府)の現状について考える。
- ・他県(都府)の現状について考える。

(進め方)

- ・自県(都府)の現状について協力して確認する。
- ・グループ毎に設問にしたい、ディスカッションを行う。
- ・各グループから代表者を選び、ディスカッションした内容を説明する。(時間があれば)

救急医療の地域における諸課題の把握と分析

(設定)

- ・来月より、県の委嘱をうけて、MC協議会会長の右腕として、専従で仕事をすることになりました。
※MC協議会会長(MC会長):58歳男性、
A総合病院院長(消化器外科医)、B医師会長
- ・事前の準備として、皆さんは、自県と地域MC協議会の救急搬送の状況を調べてみることにしました。(事前準備)

事前にお調べいただいた項目

- ① 人口(自県及び地域 MC 協議会の所管エリア内の直近データ)
- ② 基礎自治体数
(自県及び地域 MC 協議会の所管エリア内の直近データ)
- ③ 医師数
(自県及び地域 MC 協議会の所管エリア内の直近データ ※可能であれば診療科別)
- ④ 消防本部数
(自県及び地域 MC 協議会の所管エリア内の直近データ)
- ⑤ 救急出動件数及び救急搬送人員(自県、地域 MC 協議会の所管エリア内、消防本部の直近データ)
- ⑥ 救急搬送人員に対する①の人口対比(自県、地域 MC 協議会の所管エリア内、消防本部の直近データ)

事前にお調べいただいた項目

- ⑦ MC 協議会の組織体制及び委員会等の構成員状況
(自県と地域 MC 協議会)
- ⑧ 10 年間の救急搬送人員の推移(自県)※1
- ⑨ 10 年間の重症度別の搬送人員の推移(自県)※1,※2
- ⑩ 10 年間の年齢別(小児、成人、高齢者)の搬送人員の推移(自県)
※1,※2
- ⑪ 10 年間の年齢別・重症度別にみた搬送人員の推移(自県)
※1,※2

※1:直近データと10年前データの比較とする

※2:重症度別、年齢区分の定義は、データ収集元資料の定義によるもので可

事前にお調べいただいた項目

- ⑫ 受入困難事例(受入先の医療機関が見つかるまでに時間を要した事例※3)別の発生件数(自県と地域 MC 協議会の所管エリア内)の年次推移
※3:受入照会回数4回以上又は受入までの現場滞在時間30分以上の事例
- ⑬ 自県もしくは地域 MC 協議会での、救急搬送の受入困難事例を減らすための取り組みとその効果
- ⑭ 三次救急医療機関の数と位置
- ⑮ 二次救急医療機関の数と位置
- ⑯ 救急医療機関ごとの年間の救急車受入台数(自県の三次救急医療機関、地域 MC 協議会の所管エリア内の二次救急医療機関の直近データ)
- ⑰ 救急医療機関ごとの消防機関からの救急搬送受入に対する応需率(自県の三次救急医療機関、地域 MC 協議会の所管エリア内の二次救急医療機関の直近データ)

地域の救急医療体制の状況について

「MC会長:MC会長に就任したものの、救急が専門ではないので、地域の救急医療体制がどうなっているのかわからない。可視化してほしい。」

地域の救急医療体制の状況について

可視化方法

- Disaster Imagination Game (DIG)
- 災害図上訓練
- 地図を使って防災対策を検討する訓練



地域の救急医療体制の状況について

問1: ①自県(都府)の以下の項目について、現状把握に必要と思われる内容を追記してください。

(ストラクチャー)

- 二次医療圏(救急医療圏)の区分、
- MC協議会の区分、
- 3次救急医療機関、
- (主な2次救急医療機関)
- MC協議会事務局、
- 主要な消防本部、医師会、保健所
- 総合周産期母子医療センター
- 地域周産期母子医療センター
- 精神科救急医療機関

(アウトカム)

- 各救命救急センターの受入件数、
- 各救命救急センターの医師数、
- 二次医療圏毎の二次救急病院数、
- 二次医療圏毎の救急車台数、
- 二次医療圏ごとの救急搬送件数
- その他に必要なものを地図に記載してください。

②自県(都府)のコンタクトリストを作成してください。

自県(都府)の衛生主管部局、消防主管部局、母子医療の主管部局、精神医療の主管部局、医師会連絡先等

問1①、②合わせて45分をお願いいたします。

地域の救急医療体制の状況について

(問2: 基本情報からの情報分析)

①問1①、②及び事前課題にあった「各県の10年間の救急搬送人員の推移(全体、年齢別、重症度)」を中心に、グループ内で自県の救急医療体制の現状について議論してください。(10分程度)

※グループ付ファシリテーターの先生方は、問1、問2①を合わせて55分程度でお願いいたします。

②各グループから代表者を選び、①で議論した内容を全体の前で発表してください。(30分程度)

(準備物品)

- 地図(都道府県別)
- マーカー(黒、青、赤)
- 付箋
- A4用紙数枚
- テープ(ホワイトボード貼付用)

(把握方法)

- 手持ちの資料
- 地域の医療計画
- 全国メディカルコントロール協議会連絡会名簿
- 関連ホームページ等

コンタクトリスト 案（各担当課、連絡先などを書いてもらう）

グループ()	()	()	()
都道府県名	()	()	()
衛生主管部局			
消防主管部局			
母子主管部局			
精神医療主管部局			
都道府県医師会			
その他			
その他			

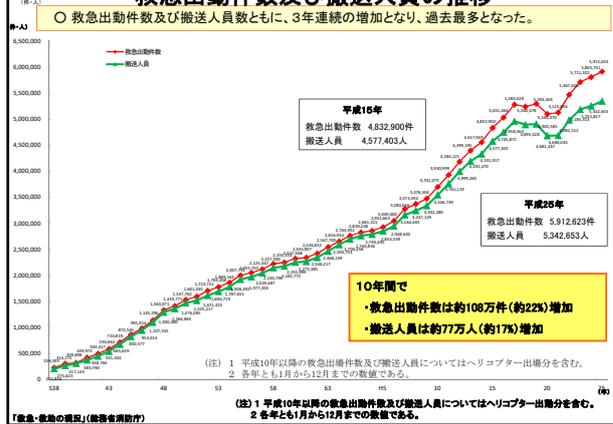
救急搬送の状況について

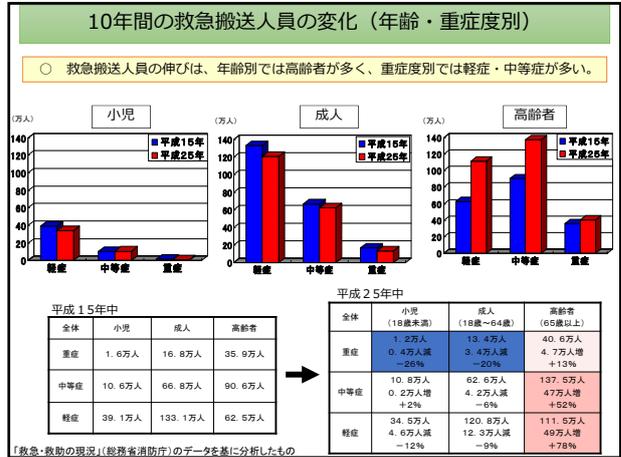
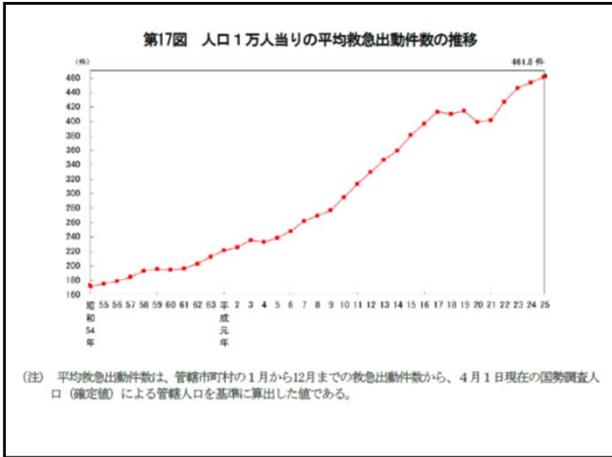
「MC会長：救急搬送件数が全国で増えていると聞くけど、人口は減っているとも聞く。この地域の現状を把握するとともに、救急搬送人員の将来の見通しを出してほしい。」



朝日新聞(平成22年12月22日)

救急出動件数及び搬送人員の推移





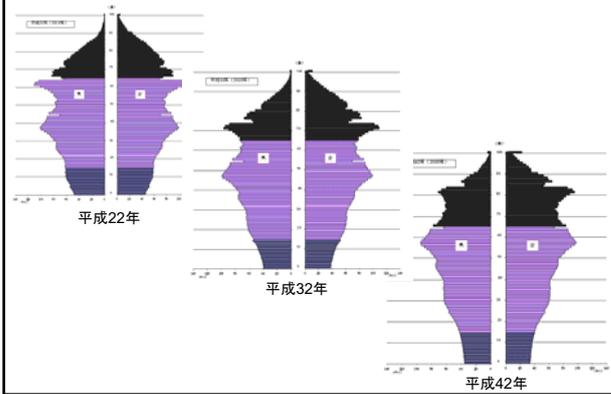
救急需要予測の計算方法



人口総数と救急搬送活動の将来推計



人口ピラミッドの変化



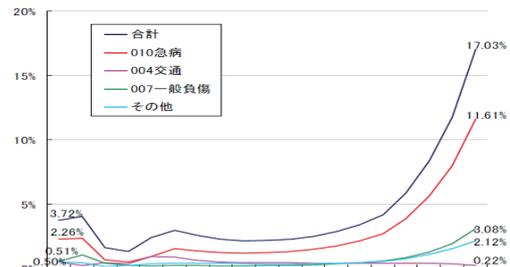
救急需要への考えられる影響因子(H21→H22)

救急出場件数が増加した要因と思われる項目(複数回答)(n=748)

	件数	割合
高齢の傷病者の増加	605	80.9%
熱中症傷病者の増加	406	54.3%
緊急性が低いと思われる傷病者の増加	287	38.4%
不適正利用者の増加	127	17.0%
新型インフルエンザ(疑い含む) 傷病者の増加	45	6.0%
その他	177	23.7%

消防庁 平成22年度 救急業務高度化推進検討会 報告書

救急搬送率=年間の救急搬送件数÷人口



※年間の救急搬送人員は平成19年～平成21年の実績値、人口は「各年10月1日現在人口(総務省)」を用いて、年齢階層別(5歳刻み)に算出した。

救急搬送の状況について

問3:各都府県の救急搬送の需要予測(2020年、2030年)を行ってください。(20分)

救急搬送の需要予測(人)
=救急搬送率×将来推計人口

- 救急搬送率:下の表を使用
- 将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口を使用)

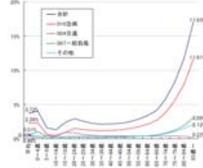
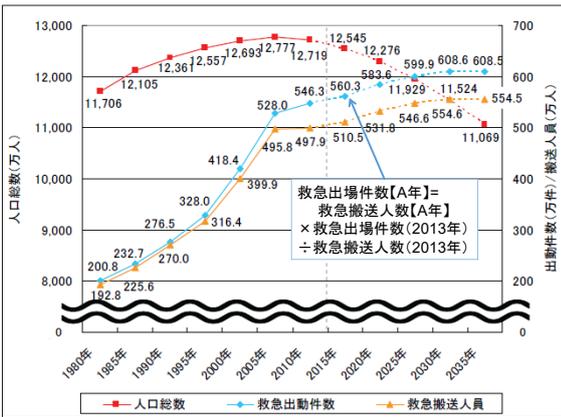


表 8-3 事故種別、年齢階層別 平成 19 年～平成 21 年平均での救急搬送率

全年齢平均	0～44歳								45～84歳								85歳～		
	4歳	9歳	14歳	19歳	24歳	29歳	34歳	39歳	44歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	84歳	85歳～
合計	3.72%	4.05%	1.58%	1.29%	2.38%	2.96%	2.53%	2.24%	2.12%	2.15%	2.26%	2.47%	2.87%	3.36%	4.16%	5.83%	8.36%	11.71%	17.03%
急病	2.26%	2.35%	0.64%	0.47%	0.93%	1.50%	1.34%	1.19%	1.15%	1.20%	1.30%	1.46%	1.74%	2.11%	2.69%	3.37%	5.64%	7.95%	11.61%
交通	0.46%	0.23%	0.42%	0.34%	0.39%	0.87%	0.60%	0.48%	0.45%	0.44%	0.41%	0.40%	0.39%	0.40%	0.41%	0.40%	0.36%	0.22%	0.24%
一般負傷	0.51%	1.02%	0.40%	0.24%	0.17%	0.21%	0.20%	0.18%	0.19%	0.21%	0.24%	0.28%	0.34%	0.42%	0.55%	0.82%	1.25%	1.90%	3.08%
その他	0.50%	0.45%	0.12%	0.23%	0.36%	0.39%	0.40%	0.38%	0.33%	0.31%	0.31%	0.34%	0.39%	0.43%	0.53%	0.73%	1.07%	1.51%	2.12%

出典:『日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)』(国立社会保障・人口問題研究所) (<http://www.ipss.go.jp/pp-ehicyoson/j/shicyoson13/t-page.asp>)



地域では

- 地域毎に状況が異なる可能性有り
- 例えば、
 - 老人福祉施設の急増
 - 観光客の急増
 - 急激な流入人口増加、過疎化 等